

# タルボサウルスとサウロロフス

～すごく大きな口だね～

## ? タルボサウルスってどんな恐竜なの？

白亜紀後期に生息した竜盤目獣脚亜目の肉食恐竜で、全長約10～12メートル、高さ4.5～5m、体重が2～5トンほどの大きさです。大きなあごとナイフのような鋭い歯、そしてがっしりとした大きな体をもっています。白亜紀後期のアジアでは最大級の肉食恐竜でモンゴルで発見されました。大きさはティラノサウルスに近く、頭は大きく、前後に長く、高く、大きな口の中には、前後に薄く鋭い歯が生えています。前肢は極度に小さく、どのような役をはたしたのかわかっていません。後肢はよく発達し強力です。モンゴルのゴビ砂漠を中心に生活していたと考えられます。

## ? タルボサウルスは どうしてあんな大きな口をしているの？

タルボサウルスの化石をみると、のみ込まれそうな大きな口と鋭くとがった歯をもっています。この化石からどのようなことが考えられるのでしょうか。

頭の大きさから考えると、大きすぎるような口をしています。アロサウルスの口もよく似ています。どうして大きい口で、鋭い歯をしているのか考えてみましょう。

タルボサウルスのあごは、はさみのように動きます。あごの関節の支点は上下の歯の根元を結んだ一直線上にあり、下あごには力強い筋肉がついていて、はさみのような動作で口は強く閉められます。このとき、下あごの鋭い歯が、上あごの歯の内側に入り込みます。

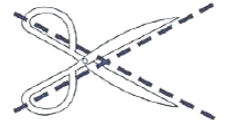


タルボサウルス



アロサウルス

肉食恐竜のタルボサウルスやアロサウルスは、このようなしくみで、大きく口をあけて餌になる動物にかみつき、のみ込むことができるほどの大きさに引き裂いたと考えられます。



## ? サウロロフスの歯はどうなっているの？

口の奥の方に小さなひし形をした歯が、ぎっしりつまって数列に並んでいます。上下の歯を合わすと、2000本になるものもいました。この歯列は、実は歯ぐきまで続いていて常に新しい歯の予備が準備されています。これを「デンタルバッテリー」といいます。

サウロロフスのあごは、口を閉じると上下の歯がほぼすべてふれあうようにできています。表側は1本1本の歯の形や模様がよくわかりませんが、裏側を見ると歯の境目がわからないほどにすり減っています。サウロロフスが食べていたのはシダ植物や裸子植物などの固い葉だったといわれています。それを大きなあごの力で咀嚼して食べていたと考えられます。



## ? どうして長い歯や短い歯があるの？

タルボサウルスの歯をみると長い歯や短い歯があって、でこぼこしています。同じときに生えたのなら、同じ大きさの歯になっているはずですが。タルボサウルスには永久歯というものがないので、どんどん生えかわるのでこのようになるのです。サウロロフスの歯も使っているうちにふれあう面がだんだんすり減りますが、下から新しい歯が上がってきて、絶えず新しい面がふれ合うようになっています。2体の大型恐竜の化石はゴビ砂漠から発掘されました。砂漠は、植物も動物も生活するには厳しい環境です。しかし、大型恐竜が生きていた頃は、現在とは違って水も豊かで植物も茂り、動物もたくさんすんでいたのでしょうか。



## たんきゅう 探究・研究コーナー！ 調べてみよう！

タルボサウルスのような歯を持つ今生きている動物には、どんな動物がいますか？ 何種類か、あげてみましょう。